

学校で身に着けたもの

就活に当たって、今の自分に何があるか、考えることは大切である。特に自分の価値を、会社の仕事で役に立つ力と言う観点で整理すると、自分の可能性を客観的に評価することができる。冷静に評価すれば、自分が、今まで多くのモノを吸収して、しかもその価値に気がついていないことに、驚くであろう。

### 1. 人間の能力の階層化

自分の力を整理するために、仕事を遂行する能力を、階層的に考えて見よう。

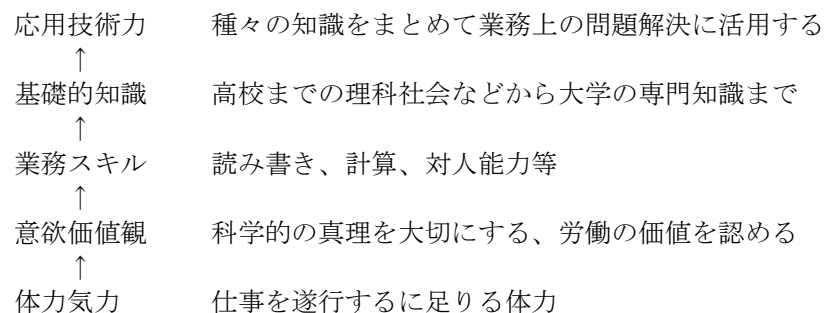


図1 仕事を行うための能力階層

図1は、仕事を行うための必要な能力の概要を、階層的に表現したものである。例えば、体力が続かなければ仕事はできない。その上で、例えばメーカーで設計するならば、物理学などの科学を信じる価値観を共有していないと仕事にならない。さらに、読み書きや論理的思考などのスキルも必要である。

その上で、学校教育で教わった知識が関係してくる。最後に知識を実際の仕事で生かす、技術の世界になる。

このように書いたが、実は今までの学生生活で、色々と良いモノが身につけているのである。これを認識することが、就活で自分の強みを明らかにする一歩となる。以下では、各部について検討していく。

### 2. 体力と気力

学校生活では、授業・講義を受けるとき、高校まででは1時間足らず、大学では100分程度の時間、その姿勢を保って座る訓練をしている。このように決められた時間に登校し、決められた時間座っている。これだけでも、体力気力がついていると言うことである。講義中に、集中力を絶やさず聴く、これができればもっと良い。

また自分が気に入ったことで、連続して集中して取り組む経験があれば、体力気力の一つの証拠となる。

体力気力と言うと、スポーツの根性ドラマを想像するかもしれないが、日常生活

をきちんと行うことが可能な体力・気力があることを認識して、自信を持つべきである。

### 3. 意欲と価値観

価値観については、あまり明確に認識していないかもしれないが、仕事をする上では大切なことである。何が大切なのか、どのようなことを正しいと考えているのか、このような無意識の選択に、我々は縛られていることが多い。就活においても、価値観の影響を意識することで、選択の自由度が増えるとともに、採用側の考え方も理解でき、対応力が増すことも多い。

このため、自分の思っている価値観、つまり大切にしているモノ、判断の前提としているものを見直しておくことは大切である。

現在の文明の下で、我々は以下のような価値観を共有している。これらは、学校教育などで、暗黙的な場合も含めて刷り込まれたものも多い。

- ・(迷信などより)科学的思考法を尊重する
- ・民主主義の政治を尊重する
- ・資本主義経済、市場主義の経済の尊重
- ・人間としての平等、公平性の確保
- ・社会の規則を守る

最後の規則を守ることに關しては、学校行事や体育の授業などで身につけているものである。朝決められた時間に起床し出勤する。このような行動も、小学校から高校までの間できちんと身に着けたものである。

なお、仕事をする上では、以下も重要であるが、残念ながら必ずしも共有されていない。

- ・人に頼らずできる限り自分の力で考えて証明する
- ・最後までやり遂げることを大切にする

実はこの中でも、自分で証明することは、科学的思考法から生まれるものであるが、現在これをおろそかにして、他人に答えを求める例も少なからず見受けられる。しかし、総合職として仕事をする上では、自分で考えて答えを出す姿勢は、身につけておく必要がある。但し、あまりにも自分だけで抱え込むことを良くない。自分できちんと考えた上で、必要な部分の助力を求める。このようにまず自分で考えることが大切である。

科学的思考法については、学校教育の中で、数学の証明問題から、各種レポート作成などの作業で、色々と訓練されている。このような教育の効果を見直すだけで、一つの価値を自ら見つけることができる。

#### 4. スキル

スキルは何度も何度も使って身に着けるもので、知っているだけで役に立つ知識とは異なる。例えば、数学的な式の関係は知識だが、日常生活で必要なお金の計算を即時に行う能力はスキルとなる。今の学校教育では、スキル習得と知識付与の区別が曖昧であるが、仕事の上ではスキルが必要となることが多い。以下では、今までの学校生活で身についたスキルについて考えて見る。

##### 4.1 論理的な理解

小学校から始まる学校生活では、まず教科書を読む経験をしている。これだけでも、文字を読むと言う訓練量は少なくない。さらに、試験問題など色々な問題文を理解し、適宜対応している。つまり、意味のある文章を論理的に理解する、基礎的なスキルを日々訓練している。

また、人の話を聞くと言うことも、講義などを通じて身につけている。

##### 4.2 人の心に寄り添う

人間関係では、人の感情を理解することも大切である。国語の授業では、登場人物の気持ちを理解しながら読む訓練をしている。また、同級生などとの交流を通じて、人の気持ちを理解する経験を積んでいる。色々な人が色々な考えを持っているということを理解することが大切であるが、その一つの経験としての学生生活がある。また、部活動や、アルバイトでの経験もこのような効果を生む。

##### 4.3 数学的処理

算数から数学と、長い期間学んでいるので、日常の計算には十分な能力が身についている。さらに、数学で証明問題を体験しているので、論理的な議論の進め方も身につけている。このように数学は、一つのスキルとして使える部分もある。数学の証明は、自分で証明することが出来なくても、このような手順で証明しているという段階を知っているだけでも効果は大きい。

##### 4.4 科学的な思考法

科学的な思考法の一つのパターンは、以下のステップを踏む。

観察→思考→実験→検証

まず、自然界の現象や社会の現象を観察する。そしてその理由を考え、どうしてそうなるか、構造を考えてシステムを仮想的に構築してみる。そしてそれを実験で検討してみる。この実験は、コンピュータ上のシミュレーションや、実験室的な実験だけでなく、思想的にシミュレーションする場合もあれば、昔からの歴史的な現象などから確認する場合もある。そして結果を突き合わせて、自分が作った仮説が正しいと検証する。

このような作業は、理科系の学問や実験など、または社会科学の検討課題などでのレポートで経験している。

そしてこの考え方は、仕事の上でも生かすことができる。文系の場合でも、お客

様の行動を調査し、動きを説明する仮説を立て、裏付けデータを採ったり、シミュレーションしたりする、そして検証すると言う行動は、マーケティングなどでも使える。このような考え方の基本的なスキルが身につくのが学生生活である。

##### 4.5 語学や IT スキル

学生時代のスキルと言えば、語学や IT スキルと考える人も多い。これも自然に多くのモノが身につけている。そして、このスキルは、きちんとした基礎知識の上で生きることを知っておくことも大切である。

単に表計算のプログラムが使えるという人と、計算の意味が解って使えるという人の付加価値には大きな違いがある。

##### 4.6 論理的に伝える

学生時代のレポート作成や、各種発表の経験を通して、伝えたい情報を整理し、相手に分かりやすく提供する訓練をしている。これは、プレゼンテーションスキルの一つである。

学生時代に身についた、論文の書き方や、発表資料の作り方、そして発表の仕方というものは、会社生活では、そのままでは使えないことが多いが、基礎的なスキルとしての応用範囲は広い。

##### 4.7 集団生活でのスキル

学校のなかでは、クラスや部活などを通じて、色々な集団に所属し、色々な立場を経験する。この中で、リーダー的役割化、従う立場か等の自分の立ち位置を見つける。その立場にふさわしい行動をする。このような経験を通じて、組織の中で活動する、広い意味でのコミュニケーション能力が身についている。

#### 5. 知識

皆さんは、学校で学ぶものとして、知識を重視しているかもしれない。また入社試験などでも、知識テストに力を入れて、対策を考えているかもしれない。しかしながら、現在の様にネット上で検索して情報が簡単に手に入る状況では、単に知っていると言うだけの知識では、あまり力にならない。

知識で有効なもの、基礎的でも使えるものである。ある電機メーカーの社長が、

「私は、電気はオームの法則しか知らない」

と言った例もある。彼は、会社の製品の動作原理を単純化して理解し、大部分は、電流と電圧の関係に還元して、納得することができたのである。このような基礎的な知識の使いこなしが、仕事の上では役に立つ。

なお歴史的知識の利用、単なる年号の暗記などでなく、なぜそれが起こったかを考えることが大切である。例えば、織田信長の色々な改革は、経済の発展に役立ったかを考えると、現在の規制緩和の流れについて、少しヒントが出てくる。このような暗記的知識でなく、考える材料としての知識が必要である。

## 6. 応用技術力

この部分は、仕事についてから身に着けるものが多い。しかし、会社で仕事をする時に、自分が今まで学んだことを加味して、付加価値をつけることができれば、総合職としての存在価値が出てくる。

このためには、学生時代のレポートや卒業研究などで、今までの知識を活用し、さらに調べて、一つのまとまったものを提示する。このような経験を応用することが大切である。

なお、物事を考えるとき、フィードバックやフェイルセーフ等の基礎的な概念は、考えの基本として使うことができる。

## 7. 各種体験

学生時代の、勉強や各種行事における成功体験、失敗体験も大切である。特に失敗に対する抵抗力、復元力をつけておくことが社会に出てから大きく役に立つ。学校で、注意されたこと、それを自分で反省し修正したこと、このように修正し成長すると言うことは、今後の社会生活で重要である。

特に企業はある種の、打たれ強さを求めている。このような力は、学生時代の失敗経験で身につくものもある。

## 7. まとめ

学生時代に触れたもの、身についたものが就職後も生かせることが見えてきたと思う。もう一度前向きに自分にあるモノを探し、補えるものは補うことで就活を勝ち抜いてほしい。

以上

2013/8/4 補足